

新入会員名簿（略五十音順）

正会員

谷井 慎明
世田谷区世田谷一四八

高木 洋子
横須賀市西逸見町三ノ一〇四

贊助会員

池谷 信二
大田区調布嶺町二ノ一二

戸田 健夫
品川区五反田二ノ一〇七

水谷 松男
千葉市辺田町五七八
国立下総療養所附屬准看護学院内

大沢 和子
荒川区尾久町七ノ一三〇

中野区宮園通り五ノ三三

岡田 五作

小田 琴
世田谷区代田一ノ三七一

成田 宏子
中野区大岡山四八

大田区田園調布三ノ四九

沢田 信子
都下北多摩郡小平町小川二一七二

前川 一靖
大田区調布嶺町二ノ八二

原口 勝之

佐久間 恵子
目黒区上目黒一ノ七六

長谷川 彰
目黒区大岡山四八

下関市彦島弟子待町五五九ノ一
中部学園内

沢田 信子
才五住宅三六号

中村 文子
港区赤坂台町六六

住所変更

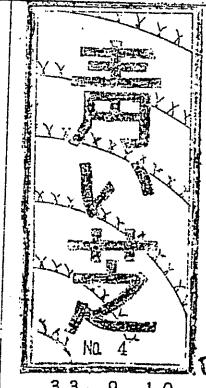
相馬 喜恵子
神奈川県藤沢市大船一〇三六

渡辺 圭子
江東区深川三好町二ノ一六

後記

○ 今回は会員諸氏からの投稿が沢山集まり、とうとう十二頁というデラックス版になってしまった。それでも且つ掲載できなかつたものもある。しかし、投稿が多い事は嬉しい事だ。今後もどしどし投稿して頂きたい。

○ 五月から六月にかけて、オ三四アジア競技大会が東京で開かれたが、その大会の標語が「エバー・オンワード（かぎりなき前進）」であつた。我々もまた、エバ・オンワードで行こう。



印 刷 所 大田区雪ケ谷七五二・青い芝の会
(山北方)
大田区調布嶺町二丁目三一
更正社タイプレーター・オフィス

編集責任者 能勢 敦子

発行所 大田区雪ケ谷七五二・青い芝の会
(山北方)

大田区調布嶺町二丁目三一
更正社タイプレーター・オフィス

人余り。工員もいれば学生もあります
彼らは脳性マヒという自分の障害の
とか克服しながら障害にひがんだり、
せんだりせず、強く生きています。や

「青い芝」
再度テレビに出る

七月十四日夕六時十五分から日本テレビ「この人を」の番組で、小児マヒ特集として脳性(小児)マヒの二つのグループ、「ひふみ学園」と私たちの「青い芝」の会の事がとり上げられて放送された。

この番組に本会を推せんして下さつたのは東京都立光明慈護学校の長沢先生で、その長沢先生も軽いC・P(脳性マヒ)なのである。

放送当日の出演者は局の方の希望で言語障害のある人をということで、私が一枚加る事になつた。しかし、当日は落合君と能勢さんという事にしたが、この二人はC・Pとしては軽い方なので代りに金沢君が出た。

さて、その放送、まず先に「ひふみ学園」の人が出た後、代つて私たちが工場で働いているところや能勢さん

が学校で画を書いている様等が映画によつて紹介されて、次いで長沢先生が推薦者の立場から「この人たちの事を広く世間に訴え理解してもらいたい」というようなことを話された。それから質問の矢は私たちに向けられたが、何しろこのような多勢の観客を前に公開(NTV本リル)の席に出たのは三人共初めてなので、心ははやれども言葉が思うにまかせない。そこで会員者が特別に原田先生の出場をうながして、原田先生から、この会が作られた動機や経過が話され、次いで能勢さんが自分の障害の様子を少し述べた。その後、ゲストとして橋本厚生大臣、教育映画作家協会委員長の吉見泰氏のお二人が登場され(橋本厚生大臣)からは「自分も障害者がだが今まで児マヒの大臣を出したなさい」というような激励の言葉があり、骨ずい性小児マヒの吉見氏からは経験談があつた。昨年の毎日音楽コンクールに入賞された骨ずい性小児マヒで両足不自由の近江康夫氏のピアノ演奏があつて放送は幕。

放送終了後出演者全員で考えたクイズがあり、全部正解したので、その賞金で会の会計はホント一息つき、又、この放送を通じて十四の個人と団体の方々から会に寄附金を頂き、深く感謝していま

"芝"はのびてゐる

本会も発足以来九ヶ月余り、誇張でなくまさに発展の一途をたどつてゐる。発足当時一年たらずの間にこんなに大きくなりうとは誰が想像し得たろうか。最初四十名程だった会員も、今では正会員一三二名、賛助会員二〇名になつた。

そして、その分布も広い範囲に亘り、大田区及びその近辺という最初の思いはすつかりくつがえされてしまった。しかし、それは喜ばしいことである。だが、そういう抜がりをもちつゝも、やはり一つの地域社会に根をおろして、そこから実質的な仕事を実らせていくことを忘れてはならないと思う。

ところで、こゝ二ヶ月ほどの会の動きをみると、七月六日に才二回目の例会を開いた。山さんの御宅を借りて開いた。これはNTVで本会を紹介するのに、会員が集つているところも出したいたと云うので、七月末に開く予定だったのを繰り上げてやられたものであります。十名出席した。そして、役員のスピーチ、本誌連載の「ヒント」の实物説明の後、出席者から希望や意見、体験談が述べられ、最後に皆でクリエーションをして楽しく会を開いた。

尚、当日は顧問、相談役の松本、原田両先生も来られて、夫々お話を下さった。その日の集りは、才一回目の例会

よりもいくらか充実していたと思うが、出席した方々の思いはどうだろう。今までます例会を有意義で楽しいものにしていきたいと思つてゐる。一人でも多く出席されるよう。

同じく七月六日、新宿の更生指導所で各種の身障者団体の連絡会を作るための準備会がもたれ、本会からは役員に代つて鈴木淑人氏と山口豊氏が出席した。この連絡会を作ろうということは、かねてから他の団体の有志によつて計画されていて、本会も参加することを呼びかけられていたものであり、八月五日の朝日新聞社における身障者教養文化の集いの後でのこの会についての話合いに役員が参加している。六日は正式の才一回目の会合で、顔合わせの程度で終つたが、今日この会をとおして、各団体との提携を密にし、自他共に對して役立たせたい。

七月十四日、NTVの「この人を」に登場を立つて、各団体との提携を密にし、自他共に對して役立たせたい。

尚、それに先立つて七月十二日の読売新聞のラジオ、テレビ番組紹介欄に本会のことが報じられていた。思えば、本会はその始めからマス・コミにのつていた。

尚、それで立派な戸棚を下さないジャーナリストであるとは、皮肉なことではある。今日、マス・コミにのることは大きな強みであり、本会に再びその機会が与えられたことは大きいに嬉しい事であり、有難い事である。

尚、それに先立つて七月十二日の読売新聞のラジオ、テレビ番組紹介欄に本会のことが報じられていた。思えば、本会はその始めからマス・コミにのつていた。

尚、それで立派な戸棚を下さないジャーナリストであるとは、皮肉なことではある。今日、マス・コミにのことは大きな強みであり、本会に再びその機会が与えられたことは大きいに嬉しい事であり、有難い事である。

尚、大田、世田ヶ谷とも子どもを募るところ、副会長の落合君は去る七月家庭の都合で役員を辞任し、代つて次の三氏が役員の仕事を「代行」することになった。

しかし、マス・コミの世界はとかく一時的であり、皮相的になり易い。そうとすれば、我々としてマス・コミのはなしやかのものを追い求めることは大きな誤りである。我々は広くPRに努めつゝも、常に着実な活動をなし、より深いものを求めていくことを忘れてはならないと思う。そして、我々にそのような機会を与えて下さった教会、又関係者に感謝を覚えるものである。尚キヤンブの前后に教文館において、関係者もまじえて準備会及び反省会をもつた。

七月二十七日から四日間、葉山教会でキャンプをする。(詳細は別報)

月七日に開き、夫々会の運営、企画について審議した。毎回沢山の議案が提出され、最もまじえて準備会及び反省会をもつた。

役員会は、六月二六日、七月十八日、八月七日に開き、夫々会の運営、企画について審議した。毎回沢山の議案が提出され、最もまじえて準備会及び反省会をもつた。

尚、大田、世田ヶ谷とも子どもを募るところ、副会長の落合君は去る七月家庭の都合で役員を辞任し、代つて次の三氏が役員の仕事を「代行」することになった。

現在、世田ヶ谷の塾の子どもは八名だが秋からあと五名位増やすことにしている。何しら、先生(?)の数や塾の設備からすれば、現在の子どもの数では勿体ないような状態である。社会資源は出来るだけ活用したいものである。先生の面では落合氏がやめたので、代つて白土さんが入り、又七月始めから水曜には主にスペル会の藤居、坂巻、山本の各氏が来られて紙芝居やお話し等をして下さる。

御好意——学習研究社から同社施行の一
年から六年までの学習国鑑一挙に御寄贈

大田区にも塾生れる
世田ヶ谷の塾も子どもをふやす

本会では現在世田ヶ谷で伊藤先生(本会顧問)の御宅を借り、未就学(脳性マヒ児)のために塾を開いているが、今回田園調布教会の御好意で(大田区でも塾をもちたいなら)と教会附属の幼稚園を貸して頂けたので、大田区にいる子どもを主な対象として、九月から聞くことにしている。思えば、発足以来まだ一年にもならない間に、こゝに才二の塾がもてるることはまさに喜びにたえない。とくに、幼稚園であれば、砂場やすべり台まであり場所として貰つてもないところであり、ほんとに有難いことである。尚、子どもは最初七、八名とし、御医者さんは伊藤先生(予定)に御願いする事にしている。

本会に御寄附下された
方々の御芳名(順不同)

林 三枝子 様	土谷二三 様
柳 賢治 様	大田繁数 様
高木志津 様	矢橋秀六 様
鈴木利信 様	岡 豊信 様
草間高志 様	釜谷玉喜 様
市川 勇 様	中村和子 様
加藤千明 様	金坂よ校 様
東京女子中学校三年三組御一同様	ライオンズクラブ 様

葉山キャンプ報告

このキャンプ実施の発端は、相談役の原田先生から、葉山教会の会堂を七月二十七日より四日間貸してくれるが云々、という話がもたらされた事からなのだ。そして、このキャンプを行つた目的の奥には遠大な計画が秘められていた。といふのは、来夏には肢体不自由者（特に脳性マヒ者を対象とした）の青年のキャンプを行おうという計画があり、その試験的な意味があり、又、その時の中核として動ける訓練の意味があつたのである。

以上のようなわけで、それに日時も切迫していたので、キャンプ参加者は役員会において人選をしたが、女子組は予想外に参加が少く三人、男子組七人となり、その他にキャンプ・リーダーとしてエスベロ会の方からキャンプのベテラン男女各一人に来て貰った。日程は女子組が二十七・八・九で男子組は二十九・三十といた。

このキャンプの目的には前にも記した様にその奥に来年のキャンプ訓練の意味があるが、さし当つての目的として、a. 梅雨事、掃除等日常生活を自分でやりとげる訓練。b. 色々な問題について各人との理解を深める話し合い。c. 各人がキャンブリーダーとしての訓練を目的としたレクリエーション、の三つを掲げ、そ

れに従つて、炊事、掃除等全ての事はなるべくリーダーの手助けを得ずに行うようになり、話し合いには男子組の場合前後約五時間が費やされた。又、食事毎のティブル・マスターや話し合いの司会は全員が交代でやつた。

キャンプの帰途（男子組）逗子駅で、別に頼んだ訳でないのに駕員が我々ために電車の座席を確保してくれた事を、ここに一寸記しておく。（山北）

キャンプ雑感

高山久子

七月二十七日、正午、私達は東京駅を立った。リュックに、スーツケースに、葉山までの道程と僅か三日足らずの日程に少し大きさすぎる出立が面映ゆい。一行五人（A班女子）。キャンブに立つ前日、私達「青い芝」のリーダー格の者二、三人は会の相談役の方々から懇々とキャンブへの心構えを聞かされたにも拘わらず、五人の内リーダーとしてついて来て下さったエスベロの方達と後組であるB班（男子）のこれもリーダーである松田さんとの三人に設営その外すべておさつてオ一日は暮れてしまつた。

A班とB班に別れてのキャンブ暮し。女子二晩、入れかわつての男子一晩の三宿四日。

新入会員名簿
(略五十音順)

小鴨和夫
世田ヶ谷区世田ヶ谷二ノ一四三七

尾堀元英
東京都北区滝野川三ノ七四

小山正義
川崎市桜本町二ノ五〇

大門
大阪市北区黒崎町六〇

塙屋智一
練馬区中村町三ノ五七八 田代方

高梨喜代子
千葉県安房郡鴨川町横濱

高梁瀧江
杉並区阿佐ヶ谷一ノ六八九

塙本芳子
静岡県伊東市松原五〇〇

渡辺澄江
品川区大井鹿島町三〇八二

今岡寛子
都下昭島市中神町一二七七

篠田初男
大田区田園調布一ノ三五

森口雅子
文京区大塚上町一〇

鈴木貴雄
渋谷区原宿三ノ三五三

大森のり子
新宿区南元町一九

大規久子
新宿区南元町一九

賛助会員

大森智恵
文京区大塚上町一〇

渡辺松江
大田区新井宿四ノ九三二

森口雅子
大田区新井宿四ノ九三二
港区麻布霞町七

新井憲明
世田ヶ谷区三宿二五

訂正
荒井直之 大田区品川区

新井宏 中台町 二八〇四

住所変更

A班、二日目のディスカッショングの公事の話題は「児マヒ適用法」を作らせなければ駄目だという一点に集中した。つまり今の身体障害者法ではあまりにも大難把すぎる。オ一、それを振つている役人の頭には障害者と云えば傷痍軍人と職場での怪我が盲人その他よりない。あまりにもC・Pを当事者達は知らないすぎる。それで幾ら拘つても、これでは私達は零れてしまう。年金にしても勤けないから支給するでは嫌だ。こう書いて来るに如

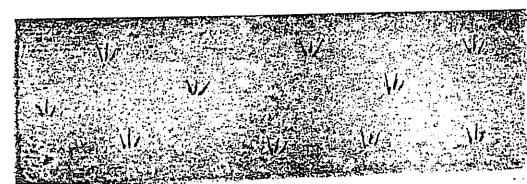
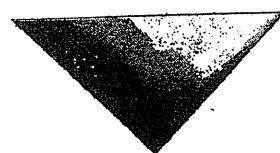
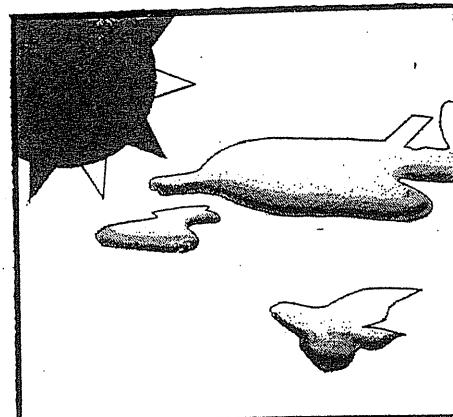
き本格的キャンプに備えて、偶々官崎牧師の御厚意と奉仕団、エスベロの御援助で其時のキャンプ・リーダー養成のトレーニング兼C・Pの相互理解の場所を葉山という絶好の地、葉山教会に得られた。海は近い。何年ぶりかの海と太陽との感触が私達を誘惑する。あれ程云われて来た言葉を私達は忘れがちに三日間を過ごして来た。曰く「今年のキャンプは遊びではない。楽しむための物では勿論ない。リーダーと成るためには何もかも自分でやつてみる事が必要だ。苦しいで考えてこい」その言葉とは程遠いながら私達は、出来るだけの料理に腕をふるい、しんのない御飯をたき、そして勝手に喋り、二人のリーダーに世話をやかせそれでも曲りなりにディスカッショングを行い、幾つかの生活規律を身につけて帰つて来た。

A班、二日目のディスカッショングの公事の話題は「児マヒ適用法」を作らせなければ駄目だという一点に集中した。つまり今の身体障害者法ではあまりにも大難把すぎる。オ一、それを振つている役人の頭には障害者と云えば傷痍軍人と職場での怪我が盲人その他よりない。あまりにもC・Pを当事者達は知らないすぎる。それで幾ら拘つても、これでは私達は零れてしまう。年金にしても勤けないから支給するでは嫌だ。こう書いて来るに如

6

青い芝

一周年記念特別号



一特集一

1. 脳性マヒの理解の為に
2. 私達の生活記録
3. 海の向うの脳性マヒ者から—アメリカの資料から—

お便りから

“青い芝”の皆様へ

塚本芳子

初めてお便りいたします。

十四日のテレビ拝見いたしました。皆様それぞれはり切つていらつしやる御様子うれしく思います。

私は、東京新宿にある国立身体障害者更生指導所に、一年三ヶ月おいていたとき家に帰つてもう三年近くになりますが、以前は、そこまでいくにも、姉の背をかりたものですが、別に治療を受けたのではないけれど、訓練と度胸で、あぶつかしいながら、杖もなく歩いています。歩くということをやく立て、商家であることを幸いに、使いや配達はり切つて居ります。店番や、それらの事を通じて言語障害の方も少しづつ克服出来そうで胸あくらしている所です。

一方、女性としての台所の方も、東京で憶えて来たアミモノと、欲ばつているの

で、とてもいそがしく、朝九時頃から夜

中の三時頃までノロノロと、はげんで居

ります。そのため、書くこということ

にえん遠く、やつとの思いで入会のお願

いの手紙を書きました。

(後略)

私の生活

原口勝之

トントン

竹の事は竹に習え

たしか、これは藤村の言葉だつたと思います。

現代のように玩具が発達しても、寸した物で野趣のある訓練道具を御作りになるのも面白いと存じます。

私は北多摩の補導所で教わりました編物をやつて居ります。来る日も来る日も編物に明けて編物くれるというような、平凡な毎日を送つて居ります。おかげを持まして仕事も無くして困るという様なことは全然有りません。私は四肢が悪いために外に出る事は余りありません。出るとしても一ヶ月に一回位です。

上肢が障害のために仕事をするにも時間がかかりますが、何とかやつて居ります。(中略) 遠地に居りますが、今後共よろしくお願ひ致します。皆様によるしく御伝え下さい。最後に皆様の健勝であられる事を御祈り致しましてペンをおきます。

皆様のヒントを御知らせ下さい。

「おい、この夏は十行ばかりあくぞ」「それぢや、これを入れたらどうだ」「こゝには何を入れようか」「一体、あと何が残つてるんだ」「え、と、それは何行あるんだ」「〇〇行、それに見出しがつく」「それぢや、丁度入るな、うまい」「以下、ワイヽがやヽ……」いつも乍らの編集風景の一コマである。

○秋風にのせて、こゝに機関誌第四号を送る。創刊以来順調な発行。

喜びにたえない。